



えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.22

令和3年2月9日

文責：校長 福島

六十の瞳

卒業を前にして、読み聞かせボランティア「かすがっ子お話し会」から6年生に読み聞かせをする機会をいただきました。せっかくなので心に残る読み聞かせにしたいと準備をし、ひと時の6年生との触れ合いを楽しませてもらいました。

教室の前に立つというのは久しぶりでした。特別な気持ちにさせられました。

「おはようございます。よろしくお願いします。」教室に入ると元気な子供たちのあいさつをどの学級でももらいました。あたたかくさわやかな空気が教室にあふれています。黒板の前に立つと、一斉に子供たちの約六十の瞳が私に向けられます。緊張しました。同時にとても心地よい、なつかしい感覚がよみがえってきます。痛いほどの子供たちの視線あびながら、教師という仕事のやりがいと責任を改めて感じたところでした。

私の話や読み聞かせを、子供たちは一生懸命聴いてくれました。どの本を選ぶか、とても迷いましたが、子供たちの前で発する言葉も心を込めて選びました。

子供たちは、私たち教師を信頼し、素直に言葉を受け取ります。教師は、言葉で子供たちを励ましたり、勇気づけたりすることができます。しかしその逆の可能性もあります。言葉は選ばなくてはなりません。時には厳しい言葉も必要ですが、いつも愛情が詰まった言葉でつまれている学校でなくてはならないと、改めて感じる事ができた読み聞かせでした。

ちなみに今回選んだ本は、立松和平さんの「いのちシリーズ」です。その中から「木のいのち」を読みました。いい本ですよ。機会があれば手に取ってみてください。

